

「世界遺産・熊野古道を守り、継承していきます！」

団体名：三重大学ユネスコクラブ

事務局：三重県津市栗真町屋町 1577 三重大学共通教育棟 103
三重大学ユネスコクラブ事務局（宮崎研究室気付）

1. 活動の目的

2008年7月に創設した三重大学ユネスコクラブ（大学公認団体）はユネスコ憲章の精神に則り、ボランティア活動を通じた地域貢献や国際支援をしながら、世界平和と人類の福祉に寄与することが目的である。なかでも「世界遺産・熊野古道」は、「1人でも多くの人達に、熊野古道を知って頂きたい。また、実際に登って頂きたい」と願い、活動を続けている。三重県南部地域活性化局や、美し国おこし・三重実行委員会やパートナーグループ、三重県教育委員会、三重県立木本高等学校、ウイズみえユネスコクラブ等、県内の多くの団体と連携し、地域活性化を目指している。この事業は三重大学地域貢献事業として認定されている。



2. 活動を始めるきっかけ



世界遺産・熊野古道5周年記念事業の準備会
三重県東紀州対策室とクラブ員が話し合った。
(三重大学総合研究棟II・3Fにて2009.7.30)

2004年7月、「紀伊山地の霊場と参詣道」は当時世界に2例しかない「道の世界遺産」（現在は3例）として登録された。範囲は、三重県から奈良県、和歌山県にひろがっており、紀伊山地一帯は昔から林業が盛んな地域で、とてもたくさんの木が生い茂っている。しかし、現在、熊野古道を支えている地元では語り部や担い手の高齢化、台風等による被害、産業振興に関わる多くの課題を抱えている。現在、熊野地域を始めとする多くの地域で過疎化が進んでいる。そのような今だからこそ、若者の力が必要なのである。私たちの住む三重県にある「世界遺産・熊野古道」を守っていききたいと思う。

活動を始めた直接のきっかけは、2009年の世界遺産登録5周年記念事業である。三重県主催で「熊野古道国際交流シンポジウム」が尾鷲と伊勢で、「プレミーティング1・2」が熊野と尾鷲で開催された。三重大学ユネスコクラブは打ち合わせから本番まで全面的に協力・協働した。部員は「地域活性化、将来への継承、保存管理」の3つのセッションに分散して、海外からの専門家や地元の人たちと熊野古道の保全と継承について話し合った。さらに、「熊野古道協働会議」では、学生の視点で提言したり、「美し国おこし・三重」のパートナーグループとしての活動等を通して、「“人類の宝もの”である世界遺産を守り、次代に継承するために、学生が今、できることは何か」と考えた。その折、「熊野古道をもっと多くの人に知らせ、ともに保全していきたい」と強く願い、海外からの留学生や日本人学生、小中高校・大学教職員、NPO・企業・行政・県民の方を三重大学HPで公募し、熊野古道ツアーや熊野古道クリーンツアー（清掃）等を始めた。こうした活動は、学生の企画・立案で下見からバス手配、運営まで行い、クラブの先輩から後輩へ脈々と受け継がれるとともに、活動領域やネットワークを全国から世界へと拡げてきた。



熊野古道国際会議プレミーティング2
三重県東紀州対策室の皆さんとクラブ員
(三重県立熊野古道センターにて 2009. 10. 10)



熊野古道国際交流シンポジウム in 尾鷲
(三重県立熊野古道センターにて 2009. 10. 31)

3. グループのメンバー構成 (19名)

- 桐山 貴衣：三重大学生物資源学部共生環境学科4年生
- 酒井 麗：三重大学生物資源学部共生環境学科4年生
- 平野 真由：三重大学人文学部文化学科3年生
- 上野かすみ：三重大学教育学部人間発達科学課程3年生
- 服部かずさ：三重大学人文学部法律経済学科3年生
- 鈴木 里歩：三重大学人文学部法律経済学科3年生
- 帝釋 智日：三重大学人文学部法律経済学科3年生
- 谷中 愛梨：三重大学教育学部学校教育教員養成3年生
- 中林沙英子：三重大学生物資源学部資源循環学科3年生
- 大串 敦史：三重大学教育学部学校教育教員養成3年生
- 木村 友紀：三重大学教育学部学校教育教員養成課程2年生
- 岩崎 真也：三重大学教育学部学校教育教員養成課程2年生
- 伴 俊和：三重大学生物資源学部資源循環学科2年生

- 小川舞由子：三重大学人文学部文化学科2年生
 横井 謙斗：三重大学生物資源学部共生環境学科2年生
 古田 晃大：三重大学工学部機械工学科2年生
 長野 樹道：三重大学人文学部法律経済学科2年生
 永野 達也：三重大学人文学部法律経済学科2年生
 岡林 達哉：三重大学人文学部法律経済学科2年生

4. 現在の主な取組内容

2009年の世界遺産登録5周年記念事業への参加をきっかけに、「今度は、自分たちが多くの人を熊野古道にお連れしたい」という一心で、大学生や教職員、市民の方を大学HPで公募し、2010年10月9日(土)に「第1回熊野古道に行こう」を主催した。しかし、当日は大雨洪水警報で熊野古道センターに辿り着いたが、馬越峠には登れなかった。そこで、12月5日(日)に再度挑戦し、「第2回熊野古道に行こう！」を開催して、馬越峠に登った。午後は花尻薫先生の講演を聞いて、



第1回熊野古道クリーンツアー(馬越峠 2012.3.15)

班別に語り部さんと参加者が「熊野古道への想いと地域活性化」について話し合った。その折に、花尻先生から「熊野古道の草むしりに来て下さい」と要請され、2011年3月19日(土)に三重交通さんと一緒に横垣峠の清掃を計画したが、3.11東北震災直後で中止した。翌年3月15日(土)「熊野古道クリーンツアー(馬越峠)」では雨の中で合羽を着て、ゴミ袋を片手にゴミ拾いを敢行した。

2011年12月3日(土)の「第3回熊野古道に行こう」では、松本峠を語り部さんと一緒に登り、獅子岩や花の巖も見学した。参加者から「三重県民なのに来たことがなかった。だから今日は嬉しい」「心に残る熊野古道ツアーだった」などの声が寄せられた。2012年5月19日(土)～20日(日)は「美し国おこし・三重」主催の第一回熊野ソーシャルレジャーに参加した。熊野を襲った台風に対する復興整備として熊野宮川に花壇を造り、フジバカマを植え、獅子岩・花の巖・浜街道をめぐり、湯の口温泉、丸山千枚田見学、夜は地元の団体や町長方と「熊野をより活性化するには」をテーマに班別で討論して発表し合った。翌日は、松本峠に登り、木本まちあるきをして紀南ツアーデザインセンターを訪問した。



第1回熊野ソーシャルレジャー(熊野宮川にて 2012.5.19)

2012年10月20(土)～21日(日)に、第2回熊野ソーシャルレジャーに参加した。1日目は5月に植えたフジバカマ周辺の草取り、アサギマダラのマーキングを行い、夜は地元の方々と座談会を行った。ここでは、学生という立場で熊野地域に対してどのような地域貢献ができるのかを話し合った。2日目は世界遺産・七里御浜の海岸を地元の方と一緒に巨大な流木を拾い集め、ゴミ拾いをした。その後、速玉大社を参拝した。



第2回熊野ソーシャルレジャー（七里御浜にて 2010.10.20～21）

2012年12月15日(土)の「第4回熊野古道に行こう！」では、三重大学生や留学生、市民の方が参加した。語り部さんから熊野古道が世界遺産に認定された経緯や馬越峠に関する話を聞きながら登った。下山後は、みえ熊野学研究会・東紀州観光まちづくり公社主催「みえ熊野学」地域巡回講座に合流し、終了後にツアー参加者と地元の方々と一緒にディスカッションを行った。そこでは、熊野古道に登った感想などを意見交換をした。私たちはツアーを通して世界遺産を次代に継承したいと考えている。つまり、一人でも多くの方に熊野古道の存在を知っていただき、熊野古道の良さを知ってもらうことである。参加者から「今回初めて熊野古道を登って想像と全く違っていた。森林セラピーを感じた」という声が寄せられた。熊野古道の良さは、



第4回熊野古道に行こう！馬越峠 2012.12.15

実際に登って見ないと分からない。写真とは全く違う良さがある。また、世界遺産を次代に保全して行く為には、伝え合うという活動が重要だと思う。言葉で伝えることで、相手もその感情を共有することができるであろうし、自分自身の意識や考えが明確になる。今回のツアーを通して、私が次代の担い手の一人であり、且つ、熊野古道を次代に継承していく一人であると実感した。今後も、このような活動を続けていくことで「世界遺産・熊野古道」の伝承の一助を担いたい。

その他に、三重県主催「国際交流フェスティバル」、他文化共生啓発イベント、「美し国おこし・三重」活動報告会、伊勢神宮奉納花火大会 ゴミナビ、伊勢神宮宇治橋渡り初め、小中校生の授業補助をするユネスコスクール活動、留学生との国際交流会、奈良の世界遺産巡り、ユネスコ青年サミット、ユースセミナー、子どもキャンプ等で、全国にネットワークがひろがっている。

また、学生と日本ラオス青少年協会の協働によるラオス・スタディツアーを行った。初回の2011年2月23日～3月1日では、ラオスと日本の学生間において英語でディカッションを行い、料理

や民族衣装の交換等で文化交流、高校では古黒板再生、ラオスの国花チャンパーの植樹、ホームステイ、世界遺産の見学、在ラオス日本国大使館訪問等を行った。2年目の2012年3月8日～15日では、山間部の小学校への支援と2つの大学で学生間交流、ホームステイ、在ラオス日本国大使館、教育・スポーツ省への訪問等を行った。小学校には30万円相当の文房具（ノート・下敷・消しゴム・鉛筆等）を寄贈した。また、「自ら考え行動し、体験をする楽しさ」を味わってもらいたくて、低学年は貼り絵、高学年は四人五脚と大縄跳びで、子どもたちと一緒に大いに盛り上がった。帰り際に校長先生が涙目でお礼を言われたのがすごく印象的だった。教育・スポーツ省への訪問では、三重大学内で募った募金を預けてきたが、後日の資金でオーディオ機器を買われてその写真と礼状が送られてきた。こうして学生企画の国際交流・支援は予想以上の成果を上げた。



第1回ラオス・スタディツアー：黒板再生 (2011. 2. 25)



第2回ラオス・スタディツアー：ルアンパバーンの小学校で交流・支援 (2012. 3. 22)

5. 現在の課題と今後（将来）の方向性、夢

直面している課題は、部員確保と活動資金の確保、ツアー等を開催した際の参加者確保の3点である。この問題を解決するために、ツアーや活動発表の際に、部員の募集を呼びかけており、ひき続き行っていこうと考えている。また、ツアーの開催前には、学内外問わず、活動を通して知り合った団体や一般の方々への呼びかけにますます力を入れていこうと考えている。

2013年3月16日(土)～17日(日)には「第2回熊野古道クリーンツアー」をウィズみえユネスコクラブと協働して、熊野市、御浜町、新宮市にある世界遺産・熊野古道を清掃しながら、現地の保存会と意見交換をし、地域活性化について話し合う。地域の人達と直接交流を持つことで、地域の現状が自分の五感を通して分かる。また、最近では、私たちが地域（熊野）の一助になるのだという使命感を感じ始めている。また、私たちは、学生だからできることもある。3月21日には三重県立木本高校生の授業時間に「世界遺産」に関する講演と活動報告を行う予定である。高校生を前に、私達の体験に基づいた活動報告が出来ればよいと考えている。

今後も、三重県や市町、教育委員会、学校や大学、他団体と協力しながら、地域貢献活動を行っていききたい。そして、2015年の「熊野古道・世界遺産登録10周年記念事業」には、ウィズみえユネスコクラブとともに全面的に協力・協働し、「世界遺産・熊野古道」を世界中にひろめていきたいと願っている。